
静内ケアセンターだより 12月9日号

アリセプトは40人に一人くらいしか効かない！

今朝の朝日新聞に認知症についての記事があった。認知症についてであるが特に新しい事ではなく、私の周りの医師や介護職には普通の内容であった。しかし、現在も多く医師が「認知症にはアリセプトを処方している」フランスでは保険薬から外した。殆ど効果が認められないからである。地方の介護職や医師が叫んでも厚生労働省は聞かんだろうが、認知症の人とちゃんと向き合っている、本州の長尾和宏医師や松本一生医師は早くから異議を唱えていた。薬は医師しか処方できないし、薬剤師のチェック機能は殆ど無い。

認知症を薬で治すことは出来ないし、認知機能の改善も難しい。一人一人の症状も違うし薬の効果もバラバラである。薬を使う場合も医師と相談し、効果に疑問がある場合は、薬の中止や変更、量を減らす等を行っている。期待した効果よりも副作用が大きければケアで対応するしかない。認知症の人の場合では「副作用が無い」といわれてる薬であっても、副作用を示す場合もある。しかし、在宅での家族介護の場合だと体験例が少ないので医師に「その薬は使わないでください」とは言えない。16年前には訪問診療に来られた医師に「入居者の状態を説明したら」「君は私に文句言うのか」と声を荒げた人がいた。認知症について素人みたいな高齢の医師だった。認知症の人が安心して普通に暮らすには医療介護連携が不可欠であるし、新ひだか町の場合は薬剤師の支援もありがたい。

新ひだか町では、内科の医師だけでなく、皮膚科や歯科の訪問診療もしてくれている。職員が安心して看取り（平穏死）対応ができるのも医療との連携があるからである。よって夜中に医師を呼ぶことは殆ど無い。

A君が除雪を手伝ってくれる！（ ^ ω ^ ）

余りの雪の多さに、駐車できるように雪をよけるのが精一杯で筋状に残っていたのだが、朝行くとA君が雪投げをしてくれていた。誰れかに指示されたとは思えないので、自分で決めたのであろう。“少しでもみんなの役に立ちたい”からなのだろうね。腕も背中も痛かったがA君の手伝いに元気をもらった。

今日は今年最後の「ゼラ」の「認知症カフェ」である。どんな出会いがあるかな？今日は田原方面の人の送迎が私の役割。美味しい昼食が出る。（ ^ ω ^ ）

